

平成22年 明けましておめでとうございます

月刊

さわやか

第33号
平成22年1月15日

《発行》
(社)日野市シルバー
人材センター
日野市日野本町2-4-7
0421581-8171

変革への最終準備の 新年を迎えて

会長 北村 讓司



明ましておめでとございます。新しい年が皆様にとって幸多き年でありますよつ、心からお祈り申し上げます。

平成22年は、われわれシルバー人材センターにとって変革への準備最終年であります。

一昨年12月に施行された百十年來の大改革といわれる公益法人制度改革三法のもと、旧來の公益法人で

あるわれわれには、特例民法法人として5年間の移行期間が設けられています。

その間に新公益法人移行の手續きを完了せねばなりません。われわれ東京都の58のシルバー人材センターは東京都シルバー人材センター連合主導のもと22年末に公益認定の申請をおこない、23年度より新公益社団法人としてスタートするべく新法の求める定款変更をはじめ諸規定の見直し、機関設計、財務会計の整備等の準備作業を行っております。

経営ルール順守が必要

このたびの改革の目的は民間のおこなう自発的な公益活動を活性化させ、その分野を大きく強いものにする事です。

改革の方向は三つのキーワードに示されています。フリー(団体の自治の尊重) フェア(透明性の高い、市民のための運営) グローバル(世界に通用する制度

会員数
平成21年11月30日
1,700名
男性 1,297名
女性 403名
入会者数
11月 29名
(男18名、女11名)
但し、退会者 20名

の国際標準化)です。

新公益法人にはしっかりとしたガバナンス(決定、執行、監督)、厳しい財務基準、徹底した透明性(情報公開)、コンプライアンスの確保(法令順守ほか)などの経営ルールが求められることになり、これらの要件を満たしつつ行ってかなければなりません。

従って、今までのゆるやかな運営ではなく、まさに「経営」が求められております。



当センター玄関前の門松

加えて昨今の状況下、国、自治体からの財政支援は薄くなることも考えられます。また、民間企業、NPO等ボランティア団体などわれわれの分野への参入増加傾向など、シルバー人材センターの経営環境は厳しさを増してきます。

われわれは、この状況を克服すべく発想の転換を図り、時代に即した強い体質の新しい日野市シルバー人材センターを作り上げるように努力してまいります。

会員の皆様方にはこのようない時代、環境の変化をご認識いただき、ご理解とご協力をお願いいたします。新年のご挨拶といたします。

センター玄関に門松 植木班が心込め作製

今年、3年ぶりに当センター玄関前に立派な門松が御見え。植木班が休日返上で心を込めて作製しました(写真上)。

「今回6ページ建て」

2面「馬場市長 新年の挨拶」

3面「公益法人制度改革の現状と見直し」

4面「地域班長だより」



新年の挨拶

公民協働

「まちの将来を見据えて」
日野市長 馬場 弘融氏

さて、私は毎年テーマを設けて
市政を運営してきました。

今年、

『公民協働』

「まちの将来を見据えて」
としています。

庚寅の年、明けましておめでとう
ございます。シルバ人材セン
ター役員ならびに会員の皆様には
輝かしい初春をお迎えのこととお
慶び申し上げます。日頃より人
材センター業務はもとより、自治
会や団体活動等を通じ市政運営
にご協力いただき感謝しています。
私事になりますが、昨年の選挙
により四期目の市政を担わせてい
ただくことになりました。多選批
判も受けましたが、経験を生かし
謙虚に職務を進めてまいります。
引き続きご指導下さい。

市政運営については全く変わり
ません。市民参画「環境にやさ
しい」経営感覚「この二つが基本
になります。特に昨年は戦後最
悪の不況に対応するため、市民の
あんしん力を高める施策を進め
てきました。人材センターの皆様
にも苦しい中をご理解いただきあ
りがついでございます。

国も企業も自治体も世界同時
不況から立ち直り、雇用や生活
の安定を目指さなければなりま
せん。市としては、人件費の削減
などさらなる行政改革に取り組
みます。とは言え切り詰めるだけ
ではつまらない。夢のある施策も
進めなければなりません。みんな
の力で苦しさをしのぎながら、バ
ランス良い行政を目指したい。
自助・共助をお願いしながら、
公助としての行政を持続的に進
めていく。大衆から市民へさら
には市民から公民へそんなレバ
アップ意識を共有したいと思いま
す。豊かな知識・経験をお持ちの
人材センターの皆様には引き続き
支援をお願いします。
むすびに新しい年、シルバ人

材センターの発展と会員各位の
健勝をお祈り申し上げ年頭祝辞
といたします。

新年の抱負を語る

役員初顔合わせ

新年恒例の役員初顔合わせ
が1月4日、センター会議室で行
われました。これには北村会長、
安藤副会長、池田常務理事の三
役をはじめ、理事・専門部会員お
よび半田事務局長代理が出席し
ました。池田常務理事の司会のも
と、北村会長が新年の挨拶をのべ
た後、出席者が一人づつ昨年の感
想や新年の抱負を語りました。
続いて一同で歓談しました。



役員初顔合わせで挨拶する北村会長
左は安藤副会長、右は池田常務理事

理事会二ニュース

第10回理事会 12月24日

審議事項「正会員の入会、
就業規則の一部改正、自動
車運転ライセンス入制度委員会
設置要綱の廃止、等

報告事項「公益法人移行に
伴う定款変更(案)」、「事業
仕分け」に関する要望書提出、
11月事業実績、専門部会
等の活動報告

「訂正」前号本欄で第9回理事会
の日付が10月30日となってい
ましたが、11月30日の誤りでした。

「センター」行事日程

- 1月14日(木) 地域班長会議
- 生活・保健センター
- 2月15日(月) 19日(金)
選挙事務リハーサル「センター」
会議室
- 3月7日(日) 第3回全地域
班一斉清掃

配分金の支払日

- 1月20日(水)
- 2月19日(金)
- 3月19日(金)
- 4月20日(火)
- 5月20日(木)
- 6月18日(金)
- 7月20日(火)

公益法人制度改革の現状と見通し

東京都SC連合の場合

本年末に公益認定の申請 23年度から新法人発足

1面の北村会長の「新年を迎えて」にあるように、新公益法人制度への移行の大きな指標は平成22年末までにおこなう公益認定の申請、および翌平成23年4月1日からの新公益社団法人の発足です。この移行を東京都下58SC（シルバー人材センター）が一斉におこなうのが特徴です。

その準備がどこまでできているか当センターを例にみてみましょう。

新定款(案)の作成 審議

新公益社団法人への移行に当たってまず必要なことは、社団法人の基本原則を記す定款（ていかん）の変更です。小委員会で検討されてきた新定款(案)が、昨年末の理事会に報告されました。

この新定款(案)は全会員の検討に委ねられ、定期総会で審議・採決されます。その時期は目下未定ですが、それに先立って本紙では、新定款(案)の見どころについて、の解説を掲載する予定です。

今秋に臨時総会を開催

次に、新定款(案)と並んで必要なことは、役員変更案（新役員選定案）の作成 審議です。そのため臨時総会の開催が今年秋に（早ければ9月にも）予定されています。併せて、必要な諸規程の変更、収支予算書の組み換え等もおこない、本年中に移行認定の申請書を東京都に提出します。

北村会長の新年挨拶では、改革の方向、満たすべき要件等について指摘されています。これらについても解説していく予定です。

補助縮減を見直す要望 で緊急署名

昨年11月13日の行政刷新会議「事業仕分け」において、シルバー人材センター援助の補助縮減という表決結果が出されたことに対し、12月上旬、高齢者の生きがい就業と生活を圧迫するシルバー人材センターへの補助縮減を見直す要望」と題する緊急署名が取り組まれました。

この署名活動は東京しごと財団（都シルバー人材センター連合）の呼びかけによるもので、当センターでは主として各地域班長に協力をお願いし、数日間で計1422筆の署名を集めました。全都是以6万6千筆余に達し、政府に提出しました。

当センターのホームページをぜひご利用ください。

<http://www.hinocatv.ne.jp/~hsc/>

事務局職員人事

事務局職員の平野恒氏が昨年12月31日付で退職しました。

就業コーディネーター ・事務局臨時職員 の募集

記

【内容】主に次の事務を担当します。仕事の開拓、受注 見積 契約に関する事務

仕事の提供および発注者、会員との連絡調整に関する事務

仕事の遂行状況の確認および就業管理に関する事務

会員の就業相談

【期間】平成22年3月から3ヶ月間

【時間】月曜日～金曜日（祝日を除く）で午前8時30分から午後5時。

【時給】850円。

【応募条件】

当センター会員の方
ワード、エクセルの基本操作ができる方

自家用車が使用できる方

【募集人員】若干名。

【応募方法】1月25日（月）から1月29日（金）までに事務局へ履歴書（写真添付）を1封持参ください。書類選考の上、面接日を連絡します。

【問合せ】事務局 向



ホームページの表紙写真(高木計宏氏撮影)

立川政府倉庫を訪ねて

～今年度第2回役員・地域班長合同研修～

食品標示の意義 政府倉庫の役割 米備蓄状況を見学

12月10日(木)、当センターの役員・地域班長合同研修が実施されました。

立川市(緑町無番地)にある立川政府倉庫は、立川米軍基地の返還(977年)後、中央防災会議の決定に基づき、1990年に竣工されました。周辺には、東京都西赤十字血液センター、災害医療センター、警察署、警視庁第4機動隊などが隣設しています。はじめに、農水省農政地域課の寺島氏、大野氏からプロシキエターを使って、生鮮食品などの食品表示ならびにJASの品質表示についての説明がありました。

次いで、立川政府倉庫の概要と役割についての説明を聞き、全員が用意されたヘルメットをつけて非常時には都民に1週間供給できるという米(玄米)1万3000トンと6万食の乾パンの備蓄倉庫に



立川政府倉庫の見学

入りました。こうした政府倉庫は全国で9カ所あるとのこと。倉庫内は想像以上広大な面積で、うずたかく積まれた備蓄米は気温16度、湿度70%に保たれており、入った途端に米ぬか油のような臭いが鼻を突き、その大量さに驚嘆しました。現場では、3年に一度総入れ替えをすることや、消費期限近くになった備蓄米は、地方自治体の防災訓練に使用されたり、期限の過ぎた備蓄米が、肥料に使われるなどの説明を受けました。参加者は以前外米(タイ米)の輸入に頼らなければならなかった状況を出していました。(舎本)

地域班長だより

平山1班 高木 計宏

現役時代はいわゆる会社人間で、隣近所以外は全く付き合いがありませんでした。これでは退職後がさびしい地域に入り何か社会に役立つことをしたい知人も得たいと平成11年にシルバ人材センターに入会しました。

現在まで地域班長を5年、公共施設関係の職場を8年、理事・専門部会員を6年務めさせていただききました。お陰様で大勢の方と知り合う機会ができて、年賀状も元の会社関係よりもシルバ関係の方が多くなりました。また班員への配布物などで2時間程歩くので、腰痛にも良く健康維持に役立っております。こんなことで地域班長はもう暫く続けたいと思っています。

ところで、私は本年度から公共施設関係の統括リーダーを委嘱され、毎月数カ所の職場を巡回しております。会員が就業している職場を実際に訪ねてみて統括リーダーとして感ずることがあります。

それはどこの職場もお客様(注者と市民)に少しでも喜んでいただけるよう、努力している様子です。職場での評価は契約高に影響します。お客様からの「信用」の積み重ねが事業の拡大につながっていきます。

お客様から良い評価を得るためには、どうしたら良いのでしょうか。私は次のように思います。

まず『仕様書』『契約書』でお客様が要求する仕事(内容、範囲)を理解する。これを完全にやらないと契約不履行になります。

『いい仕事をして、お客様に満足していただくために』

次に、『マニュアル』『作業手順書』見直し

が必要)で仕事の具体的やり方を体得する。『お客様志向』で

お客様の立場になって仕事をします。お客様やシルバ事務局に対して提案や改善(職場の経費の節減、収益の増大、事務作業の合理化など)をする。職場の第一線で働くシルバ会員が最もわかっているから。

『接遇』に気配りする。相手の気持ちになって丁寧な言葉と親切な態度でわかり易く対応する。如何でしょうか。

地域班の活性化をめざし ブロックリーダー 担当理事合同会議

今年度第2回のブロックリーダー・担当理事合同会議(年2回開催)が12月14日、センター会議室で開催されました。これには関係者のほか北村会長、安藤副会長も参加、総務部会の賀来副部長が司会を務めました。なお、第1回は6月15日開催(本紙第27号で報道)。

今回のテーマは「地域班長の任期および副地域班長選任について」。

A～Eブロックの各リーダーがブロック会議等を通してまとめた意見をのべました。任期については、現状の2年ないし3年とする意見が大半。副班長についてはまだコンセンサスなし。

議論はむしろ、公益法人制度改革のもとで地域班のあり方をどう考えるか、新しい時代の要請にどう応えていけばいいかに向けられました。とくに地域班会議への参加者が5割を切っている現状をどう考えるか、どうすればみんなが参加する魅力ある地域班活動を実現できるかをめぐって、各自の意見が出されました。

各地域班の実情の違いもあり、

有効な具体案の提示にまでは至りませんでした。楽しいやりがいのある活動を通して地域班の活性化をめざそう、との方向性が示されました。

AED講習会のお知らせ

最近、とくに公共施設の就業者には、AED(心肺蘇生・自動体外除細動器)の習得を要請される場合が増えていきます。そこで当センターでは、左記の要領でAED講習会を実施します。

記

日時 3月16日(火)

午後1時半～4時半

場所 センター会議室

講習内容 AEDの使用方法、
窒息の手当、止血方法など

受講料 1400円(教材費、
マウスピース代)

募集人員 30名まで

参加申込 希望者は2月15日
までに事務局へ、但し、公共施設
就業者(予定者)を優先。

(安全管理委員会)

就業期限確認書交付式で グループ別に研修会

12月7日センター会議室でおこなわれた就業期限確認書の交付式(前号2面で報道)では、今回も式後に各統括リーダーによる研修会が実施されました。参加者は4部門に分かれ、各統括リーダーのもとで説明を受けました。

うち学校関係の統括リーダーは、今回から千田仁一氏に代わって遠山文男氏が担当になりました。遠山リーダーは現在第七小学校で就業している経験から、就業者



説明する田村理事(右から2人目)。その左は遠山リーダー

はマニュアルを自分流に解釈して仕事に当たらないこと、マニュアル以外にも就業先の状況に応じて臨機応変に対応する必要がある」と、挨拶をかねて語りました。

さらに、初めての遠山リーダーを補う形で事業部会の田村隆道理事が、基本(マニュアル)に忠実に、3人の仲間と共働共助で応用動作には柔軟性を持って就業条件に関する問題はリーダーに相談する、など基本点を説明し、一同の共通理解として確認し合いました。(吉本)

それってなに？

入会受付相談

入会を希望される方は、まず入会案内説明会に参加しますが、次に入会受付相談(入会面談)を受けます。一般の会社で言えば「面接」に相当し、当番の理事と事務局職員が担当します。入会受付相談では、主として入会の動機、就業の意思、希望職種、健康状態等を聞きます。これまでの職歴や趣味・特技などは、適正就業を図る上で参考にするため聞く程度です。入会の可否は理事会で決定します。



運転実技の実習 (H21.10.21多摩コースで)

自動車運転ライセンス制度を解消し、安全運転・実技講習会の発足へ

2面下欄にあるように、自動車運転ライセンス制度委員会設置要綱の廃止が第10回理事会で審議、決定されました。

同委員会は平成18年12月1日に設置され、過去3年にわたり8回の自動車運転ライセンス講習会を実施してきました。その概要については、昨年11月の『月刊さわやか』第31号のコラム「それってなに？」でも取り上げています。

同委員会はこの間、運転業務に携わる会員の実技維持・レベルアップ、安全運転に関する知識情報

の修得、注意力喚起等の目的に沿い、相応の成果を上げてきました。しかし他方では、プロではない会員相互の教え合いでは限界がある」との指摘も出されています。

昨年11月8日の植木班安全運転講習(『月刊さわやか』12月号で報道)では、多摩コースの教官

「一生に一度飲むだけで脳梗塞などに絶対に倒れない」

この話は40年ほど前、博多湾に接する福岡市の小学校校長会で配布された資料が基となっており、その後、東京・国分寺市の養老施設・慶昌園で実験され、評判となりました。さらに、同市およびその周辺の人々数千人が試し、そのすべての人が健在だったそうです。

あまりお金が掛からない予防薬ですが、「秘伝」といって、「一生に一度飲むだけで脳梗塞などの脳卒中に絶対に倒れない」ウソのような飲み物の作り方を紹介します。分量は一人前。

- 一、鶏卵1個、卵白だけ
- 二、フキの葉の汁 小さじ3杯 全

が同乗しての実習がおこなわれ、受講者の共感を博しました。

こうした事情を勘案し、ライセンス制度は初期の目的を達成した」として発展的に解消し、運転業務に携わる会員を対象とした新たな実技講習会を、安全管理委員会に負託することとなりました。

現行の委員会は平成22年3月31日をもって廃止され、新年度から新しい講習会が発足いたします。

のフキの葉を3、4枚刻んですりつぶしそれを濾した汁)

三、清酒 小さじ3杯 (焼酎は駄目です)

四、梅漬け 梅漬けをして柔らかくなったもの 1個をすりつぶす(平用干しをした梅干は駄目です)作り方で注意しなければなりません

製法は必ず右の番号順に入れる。

で飲むだけ1品ごとによくかきませぬ。

梅塩漬けは、入梅の6月ごろ、フキもこの手に入ります。

厳冬どきのとき、会員皆様のご健勝で就業されますよう祈念いたします。

安全管理委員 山中康臣)

朝の公園で

三浦 和子

ついこの間の朝早く、近くの公園を散歩していたときのこと。雀より一まわり大きな鳥が目の前にバタバタ、ドサツと落ちてきた。ホオジロらしい。自分の体長ほどもある太いミミズを嘴に挟んでいて、地面に着くなりそれを歩道に放り投げた。

自由になったミミズは踊るように跳ね続けるが、鳥の攻撃は容赦ない。頭を何度も上下させて小さな口で獲ものをくわえなおして飛び上がる。が、空中でなおクネクネともがき続ける獲ものを鳥は持ちこたえられず、二、三メートルとび上っただけで不恰好に羽ばたきながら地面に落ちて獲ものを放す。捉えたり放したりを何度もくり返して動きが鈍ったミミズを嘴にぶら下げてホオジロは梢の向こうに消えていった。

朝の公園は、ラジオ体操をしている人、犬を散歩させながらその横を通る人、ボールを追ってはしゃぐ子を見守るママさんなど、たくさん笑顔があるが、その片隅でこんな敵しい命の闘いが起きているのだなあ。